

会 報

No. 25

1986年10月

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

目 次

◆第9回 日本分子生物学会年会のお知らせ	1
◆昭和60年度 会計収支決算報告	1
◆会計監査報告	1
◆1987年 情報学シンポジウムのお知らせ	2
◆公開シンポジウム「生命科学の新しい展開を求めて」	3
◆理化学研究所第9回 科学講演会 「微生物の高度利用と遺伝子研究の医学的応用」	5
◆難病医学研究財団セミナー 「分子設計と計算機」	5
◆第14回 核酸化学シンポジウム	7
◆山田科学振興財団より	11
◆東レ科学振興会より	12
◆日産科学振興財団より	12

◆第9回 日本分子生物学会年会のお知らせ

年会のプログラムが印刷できましたので、お届けいたします。尚、年会についてのお問い合わせ、ご連絡は下記にお願い致します。

〒113 東京都文京区本郷 2-40-14
 (財) 日本学会事務センター内
 第8回日本分子生物学会年会係
 電話 (03) 817-5831

◆昭和60年度 会計収支決算報告

昭和59年度 会計収支は以下の通りになりましたので報告いたします。

会計幹事 山本正幸

[I] 収入の部		[II] 支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
1. 学会費(含入会費)	5,005,250	1. 事業費	2,321,500
2. 賛助会費	900,000	会報発行	466,200
3. 雑収入	54,175	第8回年会プログラム	311,300
4. 預金利息	51,561	第9回年会補助	1,000,000
5. 前年度からの繰越	5,331,732	名簿作成	544,000
		2. 評議委員会費	222,500
		3. 学会事務センター業務委託費	1,819,385
		4. 一般事務費	1,342,050
		事務用品費	11,040
		印刷費	18,970
		通信費	911,940
		事務謝金	368,000
		その他	32,100
		5. 翌年度への繰越	5,637,283
総計	11,342,718	総計	11,342,718

◆会計監査報告

昭和61年5月29日、会計簿、預金通帳、領収書、学会センター出納記録などの監査を行ない、決算に誤りのないことを確認した。

日本分子生物学会会計監査

齋藤日向 ㊟
 溝淵 潔 ㊟

◆ 1987 年 情報学シンポジウムのお知らせ

- 目 的 科学における情報の流通円滑化と利用高度化のため、データ、知識、情報の基本問題と、それらの整備、応用に関する討議を行い研究交流をはかる場として 1984 年以来毎年行われている情報学シンポジウムを開催する。
- 内 容 データ・知識・情報の具体的課題を明らかにし、理論を体系化する。
1. データ知識整備：記述，表現，評価，識別，蓄積など
 2. データ知識流通：標準化，媒体変換，分類など
 3. 基礎理論：管理可能性，演算方式，自己組織化，類推，連想，発想，モデリングなど
 4. 応用：専門研究，開発用データ・知識統合システム構築法
- 共同主催 日本学術会議 情報学研究連絡委員会
学術文献情報研究連絡委員会
学術データ情報研究連絡委員会
情報処理学会，日本医学会，日本化学会，日本数学会，日本地理学会，日本物理学会
- 後 援 日本電信電話株式会社，国際電信電話株式会社，日本科学技術情報センター，計測自動制御学会，情報通信学会，電子通信学会，日本生化学会，情報科学技術協会，日本農学会，日本分子生物学会，日本分析化学会，日本薬学会，日本動物学会
- 日 時 1987 年 1 月 13 日 (火) ～ 14 日 (水) 9:30 ～ 17:00
- 場 所 日本学術会議 (地下鉄千代田線乃木坂駅下車)
- 参加申込み 氏名，連絡先，職名，資料必要の有無を葉書に記入し下記に申し込む。(当日受付もあるが資料不足の際は事前登録者を優先する)。
- 講演申込方法 葉書に題目，プログラム編成に必要な補足説明，氏名，連絡先，職名を記入
- 講演申込締切 昭和 61 年 10 月 18 日 (土)
- 論文記入方法 オフセット原稿用紙 B 4 (記入枠 A 4) 8 枚以下に題目，著者，所属，要旨を記載する。審査により不採用の場合は早急に通知する。
- 論文締切 昭和 61 年 11 月 29 日 (土) 必着
- 宛 先 情報処理学会 シンポジウム担当
〒 105 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館内)

木 村 保 明

TEL 03-431-2808

◆公開シンポジウム「生命科学の新しい展開を求めて」

主 催 「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会
後 後 文部省
協 賛 日本分子生物学会ほか
日 時 昭和 62 年 1 月 21 日 (水) ~ 23 日 (金)
会 場 有楽町朝日ホール

(〒100 東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町センタービル
11 階 TEL 281-0131)

セッション 1 : 細胞の社会を制御する

21 日 (水) 10:30 ~ 12:30, 13:30 ~ 15:15

担当者: 岡田 節人 (基礎生物学研究所)

細胞から器官・個体へ

岡田 節人 (基礎生物学研究所)

動物の形づくりの分子的背景をさぐる

竹市 雅俊 (京都大学理学部)

神経の行方をさめる分子

藤 沢 肇 (京都府立医科大学)

マウス胚を遺伝子操作する [16 mm 映画使用]

勝木 元也 (東海大学医学部・(財)実験動物中央研究所)

セッション 2 : 極低温高分解能電子顕微鏡技術の誕生

21 日 (水) 15:30 ~ 18:30

担当者: 山岸 秀夫 (京都大学理学部)

静かな小宇宙——極低温・高真空の空間に電子がふりそそぐ——を演出する

原田 嘉晏 (日本電子(株)EO技術本部)

極低温下の生体高分子はどこまで電子線照射に耐えうるか

藤吉 好則 (京都大学化学研究所)

生体高分子の生の姿をさぐる

山岸 秀夫 (京都大学理学部)

セッション 3 : DNA 二重らせんの多形性と塩基配列との関連

22 日 (木) 10:00 ~ 13:00

担当者: 坪井 正道 (明星大学理工学部)

溶液中の DNA のコンホメーションと薬剤の結合

坪井 正道 (明星大学理工学部)

DNA 塩基配列のタンパク質による識別

京極 好正 (大阪大学蛋白質研究所)

プロモーターの基本構造

高 浪 満 (京都大学化学研究所)

セッション4：遺伝情報の翻訳における機能制御

22日(木) 14:30～17:30

担当者：宮 澤 辰 雄 (東京大学理学部)

遺伝情報とサプレッサー tRNA

西 村 暹 (国立がんセンター研究所)

遺伝情報における方言

池 村 淑 道 (国立遺伝学研究所)

タンパク質合成系の動的構造と機能制御

宮 澤 辰 雄 (東京大学理学部)

セッション5：生命現象素過程の時間軸上への展開

23日(金) 10:00～13:00

担当者：小 林 孝 嘉 (東京大学理学部)

コンピュータでタンパク質分子を見る〔16 mm映画使用〕

郷 信 広 (九州大学理学部)

レーザーを使って 10^{-12} 秒の速さで生体分子を見る

小 林 孝 嘉 (東京大学理学部)

遺伝子はどのようによみとられるか

石 浜 明 (国立遺伝学研究所)

セッション6：生体分子の動的・高次構造

23日(金) 14:30～17:30

担当者：田 隅 三 生 (東京大学理学部)

ヘムタンパク質

北 川 禎 三 (分子科学研究所)

光合成システム

田 隅 三 生 (東京大学理学部)

生物における光受容の分子機構

古 谷 雅 樹 (東京大学理学部)

参加申込：はがきに氏名・所属・連絡先・電話番号・出席希望のセッション番号
をご記入のうえ、1月6日(火)までにお申し込み下さい(参加費無料)。

なお、講演会当日にプロシーディングを用意します。

申 込 先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部生物化学教室 宮 澤 辰 雄

(電話 03-812-1805)

◆理化学研究所第9回 科学講演会

「微生物の高度利用と遺伝子研究の医学的応用」

日 時 : 昭和61年10月29日(水) 13:00 開場 17:00 閉会

場 所 : 経団連会館 14階経団連ホール

東京都千代田区大手町1-9-4

主 催 : 理化学研究所

講 演 : 科学技術庁

協 賛 : 関連学・協会(予定)

プ ロ グ ラ ム

1. 13:10 司 会 理 事 加 藤 泰 丸
2. 13:15 ~ 13:30 開 会 挨 拶 理 事 長 宮 島 龍 興
3. 13:30 ~ 14:30 微 生 物 の 多 様 性
ライフサイエンス培養生物部部長
農学博士 駒 形 和 男
4. 14:30 ~ 15:30 バイオリアクターの最近の動向
化学工学研究室主任研究員
工学博士 遠 藤 勲
5. 15:30 ~ 15:50 コーヒーブレイク
6. 15:50 ~ 16:50 遺 伝 子 研 究 の 医 学 へ の 応 用
分子腫瘍学研究室主任研究員
医学博士 井 川 洋 二
7. 16:50 ~ 17:00 閉 会 の 挨 拶
副理事長 中 根 良 平

◆難病医学研究財団セミナー 「分子設計と計算機」

DNA 研究の発展により、遺伝子一次構造の知見は急速に蓄積する一方、合成 DNA の利用などにより、遺伝子の人工的改造も可能になりました。蛋白質の分子設計は今や広範な人々の注目を集めております。しかし、その開発には少なくとも分子遺伝、X線解析、計算機グラフィックスの三分野の緊密な連携が必須であります。この観点からも先導的研究者を講師にお願いして本セミナーを企画いたしました。皆様の活発なご参加をお願いいたします。

日 時 昭和61年11月14日(金)~15日(土)

場 所 国際研究交流会館(国立がんセンター内)

11月14日(金)

9:50 はじめに 内田久雄(東京大学名誉教授)

第1部:蛋白質の1次構造と機能(10:00~14:30)

10:00 発癌遺伝子の相同配列

竹家達夫(京都大学化学研究所)

11:00 RecA蛋白質の構造と機能

小川英行(大阪大学理学部)

12:00~13:30 昼休み

13:30 遺伝子の編成とゲノムの進化

溝渕 潔(東京大学理学部)

第2部:蛋白質の立体構造(14:30~17:45)

14:30 蛋白質の立体構造と分子進化

勝部幸輝(大阪大学蛋白質研究所)

15:30~15:45 休憩

15:45 酵素の活性中心—リボヌクレアーゼT₁の構造と活性

富田研一(大阪大学薬学部)

16:45 PhosphofructokinaseのX線解析

白木原康雄(東京大学理学部)

11月15日(土)

第3部:高次構造(9:00~12:00)

9:00 抗原抗体反応

荒田洋治(東京大学薬学部)

10:00 TMVの分子構造と自己集合の機構

難波啓一(アメリカ, ブランディズ大学)

11:00 Molecular and Cellular Graphics(仮題)

R. J. Feldmann(NIH)

12:00 おわりに

金久 実(京都大学化学研究所)

◎入場無料(但し先着180名で締切らせて頂きます)

◎申し込み方法:下記宛「往復はがき」に住所, 氏名, 年令, 職業, 電話番号を記入のうえ10月31日までにお申し込み下さい。

主 催 (財)難病医学研究財団

〒102 東京都千代田区平河町2-8-2

電話 03-239-0777

◆ 第14回 核酸化学シンポジウム

共催 日本分子生物学会他

日時 10月30日(木)～11月1日(土)

会場 徳島県郷土文化会館大会議室(徳島市藍場町2-14 TEL(0886)22-8121)

[交通] 国鉄徳島駅より徒歩10分

(1件あたり講演13分, 討論5分)

第1日(10月30日) — (9時15分より)—

1. 非酸化的炭素—炭素結合の開裂による炭素環C-ヌクレオシド前駆体の新規合成
(東北大薬) 片桐信弥 ○羽田 融・富沢佐貴子・金子主税
2. イミダツオール, プリン系アシクロヌクレオシドの合成研究
(ミノファーゲン製薬研) ○松本広淳・金子千里・山田敬子・竹内惟雄・森 武雄・水野義久
3. 5-プロムウラシル誘導体と活性メチレン化合物との反応
(岐阜薬大・北大薬) 広田耕作 ○佐治木弘尚・牧 敬文・井上英夫・上田 亨
4. リチウム化剤と保護基の組合わせを利用するウリジンの位置選択的リチウム化について
— 5位置換ウリジンの短工程合成法—
(昭和大薬) ○早川弘之・田中博道・小尾紀行・宮坂 貞
5. ピリミジン塩基とその誘導体の塩酸中の過酸化水素を用いる酸化
(鹿児島大教養) ○板原俊夫・多田美樹・井手尚子
— (10時55分より)—
6. ヒドロキシルラジカルによるチミンの酸化における生成物分布
(広島大工) ○井藤壮太郎・木下達之・手石 実・佐々木和夫
7. 1,3-ジメチルチミン及びチミジンエポキシド類と求核剤とのクロスカップリング反応について
(京大薬) ○原山 尚・柳田玲子・飯尾公美子・米田文郎
8. 光学純度100%の5'-キラル重水素標識核酸の合成
(東北大農) ○大類 洋・目黒 照
9. アデニン-2-d, 9-アルキルアデニン-2-d, アデノシン-2-d, および2'-デオキシアデノシン-2-d の新合成法
(金沢大薬) 藤井澄三 ○斎藤 徹・木津京子・林原央美・熊澤幸成・中嶋悟視
10. アデノシントシル誘導体のグリニャール試薬によるデオキシ化反応
(理研) ○川名政次郎・竹内貴久子・大羽貴代・葛原弘美
— (13時30分から)—
11. 特別講演 The synthesis and biological activity of certain pentaaza-acenaphthylenes, hexaazaacenaphthylenes and their corresponding nucleosides
(ミシガン大) ○Leroy B. Townsend・Andrew M. Kawasaki・Andrew P. VanSickle・Linda L. Wotring
12. グリセオール酸誘導体の研究(第三報) 分子間付加型誘導体とその塩基部の交換
(三共化研・分研・生研) ○室伏良信・木村美佐子・桑野晴光・飯島康輝・山崎光雄・金子正勝

13. ラット肝フェニルアラニン転移リボ核酸超修飾塩基の合成研究
 (金沢大薬) ○板谷泰助・渡辺信英・水谷朱見
14. 2'-デオキシ-6,3'-メタノシクローピリミジンヌクレオシドの合成
 (北大薬) ○吉村祐一・佐野友春・松田 彰・上田 亨
15. 8,5'-Carbamoyloxy—架橋—プリンヌクレオシド類の合成とそれらの結晶構造
 (名大工) ○源 勝磨・塩見仁郎・岩崎 浩・藤原範雄・江口昇次
16. 8-(2'-hydroxyethoxy) adenosine-5', 2''-phosphate 誘導体の合成
 (徳島文理大薬) ○丸山徳見・足立裕弘・本庄美喜男
 — (16時10分より) —
17. 二段階リン酸化剤 2-Methylthio-4H-1, 3, 2-benzodioxaphosphorin 2-oxide
 (MTBO) によるヌクレオシド類のリン酸化及びアルキル化反応に対する Dicyclohexylcarboxamidine 類縁体の構造と触媒活性の相関
 (姫路短大) ○江藤正義・川崎聖司
18. 無機ホスホリル化剤による AMP のホスホリル化反応
 (大分大教育・神女薬大・九大理) ○馬場嘉信・津波古充朝・山本良輔・与座範政・大橋 茂
19. リン脂質塩基交換反応による 5'-ホスファチジルヌクレオシド類の合成
 (東洋醸造研・北大薬) ○周東 智・植田 成・伊藤裕通・遠藤恵理子・福川清史・今村茂行・辻野正俊・松田 彰・上田 亨
20. ヌクレオシドホスホロチオイトを用いた核酸オリゴマーの合成
 (東工大総合理工) ○藤井光夫・永井 元・関根光雄・畑 辻朗
21. 非保護ヌクレオシドからの DNA フラグメント合成
 (京大工) 清水剛夫 ○尾崎広明・矢本修平・毎熊誠一郎・本多健一
- 第 2 日 (10月31日) — (9時10分より) —
22. 固相法による 5'-リン酸オリゴヌクレオチドの合成
 (阪大薬) ○田中俊樹・山田泰樹・玉造 滋・坂田武志・池原森男
23. スペーサーで修飾したアセチルセルロース誘導体を担体とするオリゴヌクレオチドの合成
 (東工大理) ○釜池和大・山影俊一・長谷川義博・石戸良治
24. ホスホロアミダイト法を用い DNA 合成におけるリン酸保護基としてのピリジリエチル基
 (千葉工大) ○浜本祥治・宍戸信義・高久 洋
25. 核酸化学合成における新しいアリル系保護基の開発とその 2', 3'-分岐型オリゴアデニル酸合成への利用
 (名大化測機セ・名大理・森永乳業生科研) 早川芳宏 ○加藤久豊・昇 忠仁・野依良治・今井二郎
26. 核酸の前生物的合成系の構築: シアノイミダゾールによるオリゴグアニル酸の鑄型合成
 (三菱化成生命研) ○金谷栄子・柳川弘志
 — (10時50分より) —
27. T4 エンドヌクレアーゼ V 遺伝子の合成と発現
 (北大薬) ○稲岡哲也・三浦一伸・大塚栄子

28. 核酸塩基を含むHPLC 樹脂の応用
 (阪大工) 于 燕生・近藤紘一 ○竹本喜一
29. RPC-5 改良品 (Neosorb LC) を充てん剤に用いたHPLCによる長鎖長合成DNAの分析および精製
 (東大薬) ○沢井宏明
30. ラットPCNA/cyclin の cDNA クローニングと全塩基配列の決定
 (東海大医) ○守内哲也・松本圭二・小路武彦・中根一穂
31. ホスホランバンcDNA の解析
 (サントリー生医研・阪大医) ○植田淳子・北野勝彦・藤井順逸・門馬正明・
 多田道彦・田中正治
 — (13時10分より) —
32. 特別講演 Mechanism and structure of thymidylate synthetase
 (カリフォルニア大) Daniel V. Santi
33. アデニル酸キナーゼ, F₁-ATPアーゼ, アミノアシル tRNA 合成酵素およびコア酵素の遺伝子構成要素としての原基遺伝子について
 (新潟大理) 大西耕三
34. 大腸菌におけるヒトTNF 発現系の検討
 (持田製薬細胞科学研) ○遠山純一・森下英昭・新居 淳・長瀬安数・金森利至・
 延原正弘
35. 腫瘍遺伝子rasの化学修飾— Glu-P-1および4NQO —
 (東大薬・国立がんセンター研) ○橋本祐一・河内恵美子・首藤紘一・関谷剛男
36. 亜硫酸アミン混合試薬によるDNAの修飾とその応用
 (岡山大薬) ○根岸和雄・別所忠昌・西沢正彦・川上益美・早津彦哉
37. 2-(ニトロフェニル)アデノシン誘導体の変異原性
 (北大薬・岡山大薬) ○松田 彰・上田 亨・小原淑子・佐竹弘靖・綿矢有佑・
 早津彦哉
 — (15時50分より) —
38. グアノシン, デオキシングアノシンのアミノ化反応: 発癌性アリールアミン類のDNAに対する反応機構の研究
 (名古屋市大薬) ○幸田光復・馬場邦尚・川添 豊
39. 熱帯病原寄生原虫に対し高い選択毒性を有するイノシンアナログとその作用機構
 (岡山大薬・岡山大医・北大薬・東洋醸造医薬研) ○綿谷有佑・佐竹弘靖・
 平岡 修・安治俊樹・森重和久・Julieta Y. Kimura・石井 明・
 松田 彰・上田 亨・福川清史
40. サクラマス精巢DNAポリメラーゼ α_2 -プライマーゼにおける基質糖部の認識
 (北大薬) ○伊豆田俊二・木村 茂・竹貫健二・実吉峯郎
41. 8-OH-グアニンを含むDNAの複製時における読み違い
 (国立がんセンター研・北大薬) ○口野嘉幸・森 文子・葛西 宏・西村 暹・
 井上英夫・岩井成憲・大塚栄子

42. チトクロムP-450 モデル錯体によるDNA切断反応
(徳島大薬・徳島大医・神戸学院大薬) ○桜井 弘・渋谷雅之・秋本 茂・川崎絏一・
前田光子

— (17時20分より)—

43. ビチアゾール部位を修飾したブレオマイシンによるDNA切断反応
(京大工・京大薬) ○森井 孝・杉山 弘・斉藤 烈・松浦輝男・桑原 淳・
鈴木 匡・杉浦幸雄
44. ブレオマイシン鉄錯体により生成するアルカリ不安定部位の構造と反応性
(京大工・ヴァージニア大化学) ○杉山 弘・森井 孝・斉藤 烈・松浦輝男・
Sidney M. Hecht
45. アンチコドンシステムの塩基対数の異常のあるキメラ tRNA の酵素的合成: その構造と機能
(名大理) ○西川一八
46. 酵素ペプチド鎖延長因子EF-3の固有のATPase活性とスクレオチドとの相互作用
(名大理) ○宮崎正澄・瓜谷真裕・鍵山英人

第3日 (11月1日) — (9時10分より)—

47. 高度好熱菌の tRNA (guanosine-2') methyltransferase の tRNA 認識機構
(東大工・北大薬) ○堀 弘幸・渡辺公綱・実吉峯郎・三浦謹一郎
48. ホスホセリル-tRNAはホスホセリンアミノトランスフェラーゼの基質となるか?
(名古屋大薬) ○水谷隆治・神戸啓子・橋 芳夫・木村由紀子・日高輝明
49. Evan's Blue によるDNA polymerase α, β の活性阻害
(愛知県がんセンター研・ルーバン大レガ医学研) ○中根英雄・小野克彦・
J. Balzarini・E. DeClercq
50. Ricin A 鎖の ribosome 不活性化機構と tRNA の構造
(山梨医大) ○遠藤弥重太・剣 邦夫
51. DNA 表面の新しい表示法とプロモーター部位への応用
(東大理) ○藤野真司・陶山 明・和田昭允

— (10時50分より)—

52. DNA 二重らせんの多様性と塩基配列との関連: ラマン分光による研究
(東大薬・東工大総合理工) ○西村善文・鳥越智香子・片平正人・楯 真一・
田中治嗣・坪井正道・松崎淳一・穂戸田仁・関根光雄・畑 辻明
53. tRNA・タンパク質相互作用のCDによる解析
(東大理) ○横山茂之・春木 満・横山三紀・宮澤辰雄
54. ColEI DNA のヘリックス・コイル転移の示差走査熱量測定と理論的解析
(東大応微研) ○前田好美・大坪栄一
55. 好熱菌 *B. stearothermophilus* の 5s rRNA の立体構造
(北大理) ○福島 敬・新田勝利・須見新太郎
56. 制限酵素の認識部位を含むスクレオチドデカマーの ^1H スペクトルの全帰属
(東大薬・FDA) ○神藤平三郎・大久保重敏・松本 潮・Jerald Zon

— (13時10分より)—

57. 二価金属イオンによるポリアデニル酸発光の消光
 (電総研) ○小林俊介・山下幹雄
58. DNA とヘキスト 33258 の相互作用——螢光法による研究——
 (山口大理) ○久保田幸雄・村重智美・藤崎康雄
59. λ OR3-Cro complex の構造—OR3 を中心として
 (阪大蛋白研・阪大薬・北大薬) ○李 尚鐘・白川昌宏・山本一男・阿久津秀雄・
 京極好正・北野勝彦・新 優・白石正三・大塚栄子・池原森男
60. High anti 配向をとるシクロヌクレオチドオリゴマー $C^O G^O C^O G^O C^O G^O$ の分子構造
 (阪大薬) ○荒岸 淳・藤井 敏・上杉晴一・李 福津・池原森男・富田研一

参加予約申込締切 10月4日(土)

氏名, 所属, 連絡先および懇親会への出欠を明記の上, 郵便振替では「徳島1-35689番, 第14回核酸化学シンポジウム」宛または現金書留では下記連絡先宛にご送金下さい。

参加費(当日渡しの要旨集代金を含む)

予約受付 4,500円 当日受付 5,000円

懇親会 10月30日(木) 18:30より阿波観光ホテル(徳島市一番町3-16-3)

TEL (0886) 22-5161), 会費 5,000円

連絡先: 〒770 徳島市山城町西浜傍示 180

徳島文理大学薬学部薬品化学教室

本庄美喜男(または丸山徳見)

TEL (0886) 22-9611 内線 310・361

◆昭和62年度 山田科学財団研究援助候補推薦要領

1. 援助の趣旨

本財団は, 自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループに対し援助します。

2. 援助の件数及び期間

イ. 件数 1件1千万円以内の援助を10件内外

ロ. 期間 1年を原則とします。

3. 推薦方法

イ. 推薦者 本財団が依頼した学(協)会の代表者

ロ. 推薦件数 1推薦者ごとに4件以内

ハ. 推薦手続 推薦者は, 以下の書類を整え, ご送付願います。

1) 所定の推薦書用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 5部

2) 添付書類(ページ・研-5 参照)

4. 推薦締切期日

本財団へ推薦書が到着する締切期日は 昭和62年3月31日(火)です。

5. 推薦書送付先及び連絡先

財団法人 山田科学振興財団 (Yamada Science Foundation)

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号 電話 大阪(06)757局 3311(代表)

◆第27回(昭和61年度)東レ科学技術賞候補者推薦要領

1. 候補者の対象 貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したものの
2. 科学技術賞 1件につき本賞：金メダル・副賞：300万円(2件前後の予定)
3. 候補者推薦件数 1学協会から2件以内
4. 推薦者 学協会の代表者
5. 推薦手続 所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日 昭和61年11月10日(月)
7. 科学技術賞の贈呈 昭和62年3月の予定

◆第27回(昭和61年度)東レ科学技術研究助成候補者推薦要領

1. 候補者の対象 貴学協会に関する分野で基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる研究を活発に行っている研究者、またはそのグループ
2. 研究助成金 総額1億円前後、1件1,000万円程度としますが、あまりこの額にとらわれる必要はありません。とくに重要と認められる研究については3,000万円程度でも助成を考慮します。
3. 候補者推薦件数 1学協会から2件以内
4. 推薦者 学協会の代表者
5. 推薦手続 所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。
6. 推薦締切期日 昭和61年11月10日(月)
7. 研究助成金の贈呈 昭和62年3月の予定

(推薦書提出先・連絡先)

財団法人 東レ科学振興会

〒103 東京都中央区日本橋室町2丁目8番地(三井6号館)

電話 第京(03)245-5919

◆第13回(昭和61年度)日産学術研究助成候補推薦要領

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の有意義な研究であって、先駆的かつ独創的なもの、また学際的なグループによって行なわれるものに対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものであります。

2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野の基礎研究、および応用研究とし、本年度は当該分野

のうち次のような研究を期待します。

なお、極めて創意性に富むもので、これを実証する研究業績によって将来の発展が見込まれる萌芽的研究に対しては一般研究助成(B)とし、また必ずしも実験を伴う研究のみでなく、いわゆるソフトの研究に対しては調査研究助成として扱います。

- ① 高等生物のバイオサイエンス
- ② 環境の改変の生態系に及ぼす影響
- ③ 生物指標による人間環境の評価と監視
- ④ 新しい原理に基づく環境の評価と計測・制御
- ⑤ 環境汚染物質の複合効果とその機構
- ⑥ 有害な環境要因のヒトに対するリスク評価方法
- ⑦ 有害生物の無公害駆除法
- ⑧ 環境の自然浄化機構の解明とその利用
- ⑨ 新しい機能材料
- ⑩ 人間—機械系の解析による安全性向上と生物体類似の機械系の開発
- ⑪ ソフトエネルギーの開発と利用
- ⑫ 海洋資源の利用
- ⑬ その他上記に類する研究

例示した課題の内容については別添の説明資料をご覧ください。

3. 助成対象の研究者

貴学(協会)に関する自然科学分野の研究に従事しており、1～3年を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献する所が大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額と助成件数

区分 要項	一般研究助成		調査研究助成
	(A)	(B)	
研究対象	研究期間が長期にわたる研究、学際的グループ研究等 助成期間は2～3年*	極めて創意性に富む萌芽研究 助成期間は1年**	ハードな研究を前提とする調査研究(研究計画の評価、有効な研究方法の探究等) 助成期間は1～2年
助成金総額 (1件の金額)	約200,000千円 (上限30,000千円)	約40,000千円 (上限3,000千円)	約10,000千円 (上限4,000千円)
採択件数	10件程度	15件程度	3件以内
助成金の 支払期間	昭和62年度(62/4～63/3)を助成第1年度とし、研究計画に従い年度毎に所要額を交付	昭和62年度に交付	昭和62年度を第一年度とし、研究2年にわたるものは年度毎に所要額を交付
助成金の 使途条件等	—————	—————	主として調査、討議等に要する費用

注) * 研究の性質上、特に必要な場合は研究が4年にわたることを認めます。

** 研究の性質上、研究期間が2年にわたるものも認めます。

5. 推薦件数

助成区分を通じ1学・協会より1～3件とします。

6. 推薦者

学・協会の代表者とします。

7. 推薦手続

所定の推薦用紙に必要事項を記入し，当財団あてに1部をご送付願います。

8. 推薦締切日

昭和61年11月10日(月)

9. 研究助成金の贈呈

昭和62年3月 贈呈式を行ないます。

(推薦書提出先・連絡先)

財団法人 日産科学振興財団

〒104 東京都中央区銀座6丁目17番2号

電話 東京(03) 543-5597